

25

(25)

20.6.9

3

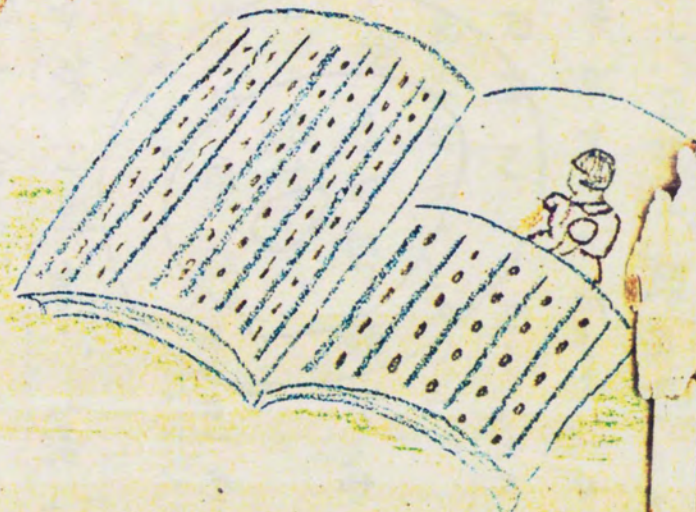
五

日

記

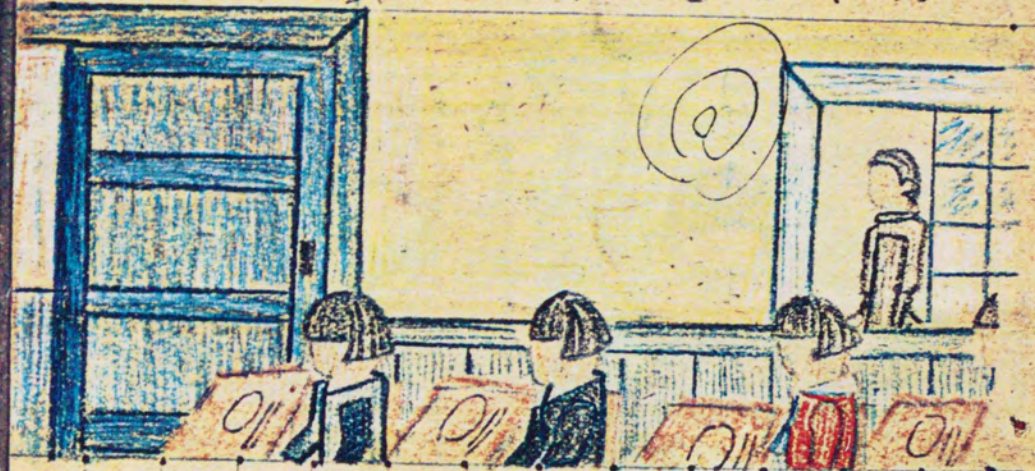
20.7.5

柳野徳子



10

曇雨小(生)日九月六



今日から又新しい日記だ。繻も字もきれいに
書かう。朝食がすんでから、三つの事
に氣をつける事と、一つよくなつて来
た事を岩丸先生がおしやうた。
一、役の登り降りの時鏡でみだし
なみをきく。とある。
二、席からたつ時は、椅子をききん
と入れて行く。
三、紙くづを落さぬ事、落ちて
おたら必ず拾ふ。
この点をよくしよう。
一、お食事のおさほう 以上
この点を今までよりもますます

25
P.M.
1

2 P.M.

六月九日(土)

八海の幸(たとへ
油でも流したやうに
遊を両手ですかかへる
すがりつゝやうに
潜水艦を思はせるやうな
細長い魚雷のやうな
小型の爆弾のやうな
山の頂が銀のやうに

帯のやうな
魚の骨を山のやうに
生きもののやうに
ぴちぴちとはねて
戦場のやうな



よりきりなます



よくしよう。

國語は、海の幸を昨日にひきつ
づいてお習ひした。ぬもこ^かういふ
のを一度でも見たいと思った。きつと
頭の中で魚がくのよりもずつと勇
ましくだう。國史の時間は自修
だった。鉛筆をけづたり、日記を
書いた。書取の練習をしてゐる
人もあった。算數は、昨日と同
じ、尺・間をお習ひした。お母
様が三寸あげをすればよい
とおっしゃったのは、センチで表せば
九センチであるといふ事が片に
なつておらわかつた。

午後から寮へ歸つてお洗濯をした。
下ばき・タオル・運動着・もんぺを洗
った。今日もねり^便を^使した。
干してから前つばを作り、荷物の
整理をしてから、前賀先生にゴムを
いいただきアンゼン^きを^かいて^いた^だいて、
小さい階段の下に行つてゴムを^いれ
て水を^いれた。みん^なは^上で^ホリ^ボ
リ。いり豆を^いた^だいて^おる。す^んで^か
ら手を洗つてからお豆を^いた^だいた
^いた^だいて^しま^つて^から^はな^をを
^すげ^た。
^敷床^用意^にな^つて^おふ^とん^を
^敷いて^寝ま^きを^着て^ひな^菊白

六月十日(日)



百合のお部屋に集って、反省會を
した。始めよくなつて来た事、を
反省した。上原さんの荷物がきち
んとしてゐる事。自分の事、がい
いろな事をして下する事、迫水さん
や國行さんのすんぽな事。
などが出た。おのれに見習ほう
と思った。攻めやうと思ふのが、だ
いぶあつた。お食事の時、お手洗・夜
歩き方の事が出た。やっぱり攻める
方が多かつた。早く攻めるのが、少
なるとよい。と思つた。よく反省して、
今日、^晩時の記念日である。一年
の時、^晩展會に、画用紙を二つ折
りにして、片側に計を書き廻りに
色をぬつて出した事があつた。と
思ひ出した。三年か四年の時、天智
天皇が始めて時計をお作りにな
つたといふのを、お習ひした事も
思ひ出した。それに今日は、みさい
取りだ。朝から雨が、今にも降り
さうだ。朝食がすんでから、すげ
がさき取りに寮へ歸った。日が出
て来て、晴れさうだ。小矢部川の橋
の所まで、ほんたの櫻を元氣よく
歌った。道々、田んぼでは、お百し
さんが、苗代で作った。苗をきちん
と並べ、いろいろやる。ほんたうに有



百合のお部屋に集って、反省會を
した。始めよくなつて来た事、を
反省した。上原さんの荷物がきち
んとしてゐる事。自分の事、がい
いろな事をして下する事、迫水さん
や國行さんのすんぽな事。
などが出た。おのれに見習ほう
と思った。攻めやうと思ふのが、だ
いぶあつた。お食事の時、お手洗・夜
歩き方の事が出た。やっぱり攻める
方が多かつた。早く攻めるのが、少
なるとよい。と思つた。よく反省して、
今日、^晩時の記念日である。一年
の時、^晩展會に、画用紙を二つ折
りにして、片側に計を書き廻りに
色をぬつて出した事があつた。と
思ひ出した。三年か四年の時、天智
天皇が始めて時計をお作りにな
つたといふのを、お習ひした事も
思ひ出した。それに今日は、みさい
取りだ。朝から雨が、今にも降り
さうだ。朝食がすんでから、すげ
がさき取りに寮へ歸った。日が出
て来て、晴れさうだ。小矢部川の橋
の所まで、ほんたの櫻を元氣よく
歌った。道々、田んぼでは、お百し
さんが、苗代で作った。苗をきちん
と並べ、いろいろやる。ほんたうに有



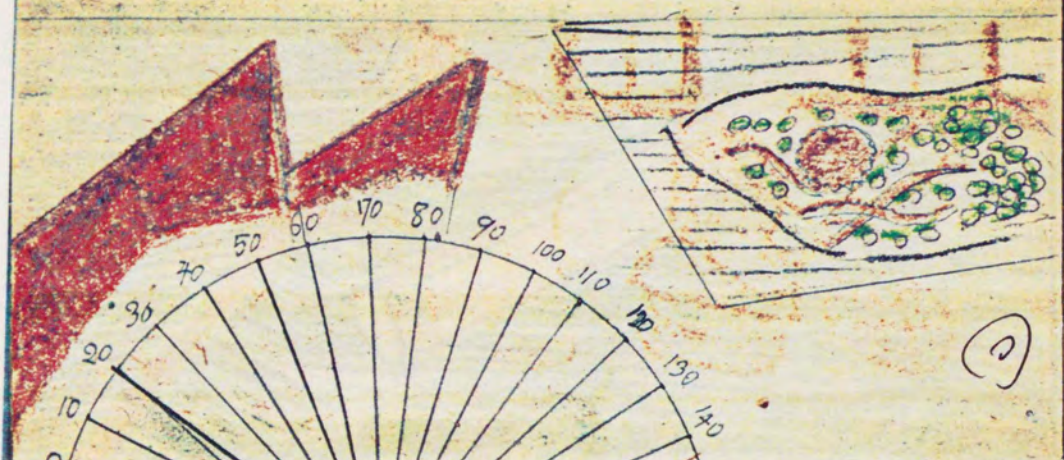
がたいと思ひながら通り過ぎた。
 取り始めた。今日も袋一ぱいに取
 りうと思つた。始めのうちはあるま
 りなめつたが、進むにつれてだんだ
 ん取れて行く。上原さんと一緒に
 なつた。「山さいつてほんとにあいし
 母のためにはいいね。なびとお話し
 ながら、ボキンボキンとあちうで
 もこちうでも音をたてながら、わ
 りびを取るのに一心になつてゐる。
 あうここにすね布あるわもつた
 いないほどだね。」と言って取つてゐる
 とずつと向かふの方で「集合」とおつ
 しゃつた。早く行かうとするが、大き
 なお化けのやうなわらびが、山あつておし
 らない。取らなで行くと、もつた。い
 とおろくなつて皆さんには、取つて行
 わからない。前田家の、るる、所まで
 いた。おべんたう用意だ。どこでいた
 所を探してゐるとわらびが澤山あつて
 どうにか場所をきめた。前を見るに下
 の林のやうだ。おべんたうがすんたう
 とどこにあるかよく見てゐる。御飯が
 きぬいでわらびを取りに行った。すぐ
 ので急いづ集つた。それから坂をさり
 た。わらびをござの上に一かたまりに
 した。箱を洗ひ寮へ歸つて、母をふ
 がよかった。二階へあがつてお晝寝
 をした。



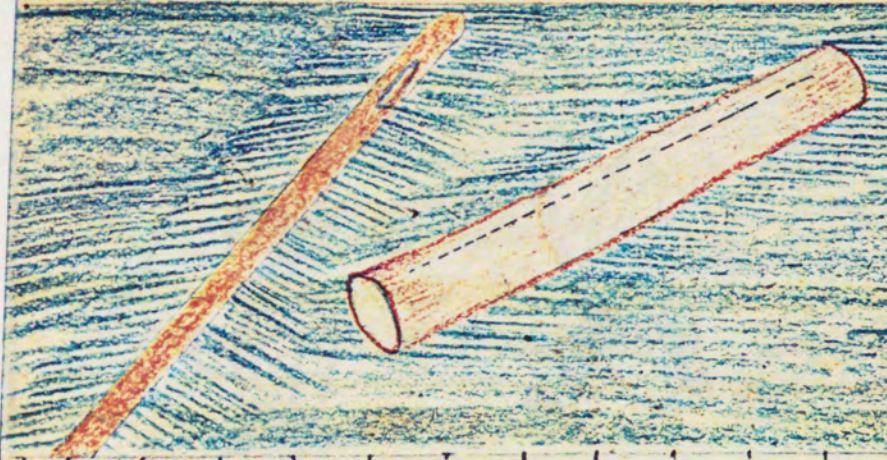
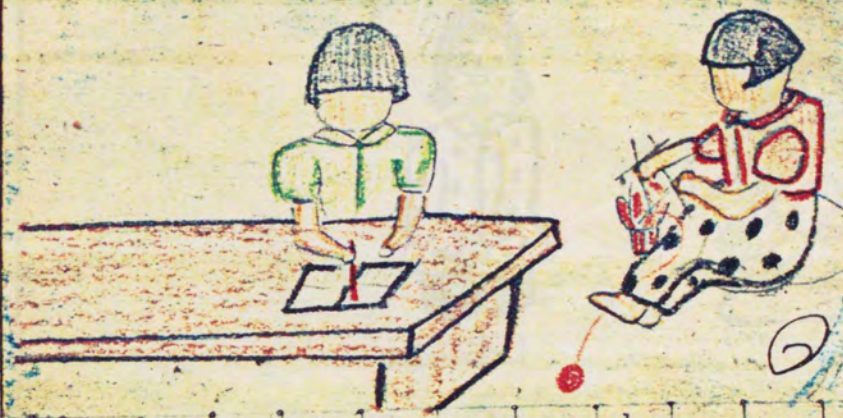
知らず知らずのうちにねむってしま
まった。起きてすぐお掃除してお
夕食に行った。寮へ歸ってから荷
物の整理をした。どうして見ても上原
さんのよりはまた何となくきたない。も
と荷物が多ければ整理しやすいのに
それにきれになるのと思った。
本當は、はなをのこらしゅう會をす
るはづだった。が、みんな日記がたま
るといけないので、明日にのぼし
た。

六月十一日月曜日 晴曇

今日は休養である。朝食がすん
でから、すぐ寮へ歸った。さうして、



荷物の整理をした。きれいになった
ので、心まですとした。それからす
みれのお部屋から、百谷のお部
屋にかけて二列に向かいあって、
國行さんのお母様が持つて来て
下さったお菓子と、みかんのかんづ
めと、いりまめと、赤い果物のおつ
ゆのやうなのをいただいた。めん
なともおいしかった。するめも
いただいた。それから日記を書い
たり、あみ物をしたりした。
お隣りの文はう具店さんに行つて
か度器を買ひに行つた。
午後、寮に居た。発表會にする



事をさうだんしたが、本がないので
出来なくなつてしまつた。手袋を全
部あめあげて日記を書いた。あま
り風が強いので戸を少しだけ明け
ておいたり、あ部屋が暗くなつた。
なんだかつまらないやうな気がした。
夕食がすんで寮へ歸つて、少しして
から昨日出来なかつたはなをのこ
うしゅう會があつた。布は縦布で
半がへしぬひでするとおっしゃつた。
はじめから一センチはいた所からぬひ
出さないとおとて困るとおっしゃつた。
ひっそりかへす時は、竹の棒のやう
なのの上に細長いあなのあいてお
るものでひっそりかへすのだ。なん
だあんなものなんか作れると
思つたりまちがひ、工夫に工夫を重ね
て作りあげた物なのだ。はなをの
こしゅう會がすんでから少しして、今
度は、禮法のこしゅう會があつた。先
めに最敬礼のおはいをした。最敬
禮をする前に吸つて吐きながら頭を
さげ、こしゅうしてから、吸ひながら
頭をあげるのだ。さうして着物を
着て、立つて最敬礼をする時は、つま
先をまはせ。洋服の時は六十度に
開くのだ。次に、お食事の時の禮
法だ。おはしの取り方は、先づ右



いづる。外を通る人は、みなめ
のを着て、雨がさかづいて歩い
てゐる。傘をさしてゐる人も歩い
てゐる。川の氷は、うたがきと音をたて
て、すごい早さで流れてゐる。私た
ちもレニコートを着て、傘をさして出
発した。思ひ思ひにちうかうこち
うからと降つてゐる。ちようど見ると
雨がけんぐめでもしてゐるやう
に降つて来る。學校に着いた。階
殺の所は、傘のしづくがぼたりぼ
たりとたれてゐる。
算数の時間は、あうちの圖
を書いた。少し忘れた所もあった。



と書いた。
六月十二日、火曜日、雨
夜中から降り出した雨が、あつた
やうにまだ降り、續いてゐる。い
だな、あ、雨が降つてゐると思ひな
がらお掃除をした。洗面がすんで
もまださきと同じやうに降り、續
いてゐる。外を通る人は、みなめ
のを着て、雨がさかづいて歩い
てゐる。傘をさしてゐる人も歩い
てゐる。川の氷は、うたがきと音をたて
て、すごい早さで流れてゐる。私た
ちもレニコートを着て、傘をさして出
発した。思ひ思ひにちうかうこち
うからと降つてゐる。ちようど見ると
雨がけんぐめでもしてゐるやう
に降つて来る。學校に着いた。階
殺の所は、傘のしづくがぼたりぼ
たりとたれてゐる。
算数の時間は、あうちの圖
を書いた。少し忘れた所もあった。



たのしいね

ゆめみえん



國語の時間は、お約束通り書
 取があった。かなふりと、かん字があ
 った。それがすんでから、九軍艦生活
 の朝をお習ひした。これも海の幸
 と同じやうに海の事が書いてあ
 る説明文だ。本堂に勇しいと思
 った。午後からは入浴だ。二年生
 も来るのだ。お掃除當番の二班
 かうはいた。私は、昨日講習會が
 あった鼻^ノ緒を作った。布がへび
 のやうな気がしてたまらなかつた。
 三班もすんで私たちの番になった。
 軽石を持ってお風呂場へ行った。
 足を洗ふ時、軽石でこすると、けし
 ゴムでまちがへた序でもけたやう
 にぼろぼろと出て来る。見てもい
 やになつてしまふ。^{牛糞}すぐさ、まっ黒に
 なつて、洗面器に、あかが浮いた。
 ゆぶねにはいつ、ちやうどよい温度
 になるまで寒暖計^{ばかり}を見てゐた。
 あまりはいつてゐたので、汗が出て来た。
 なかへちやうどよい温度にならな
 い。少しぬるいが、出てしまった。
 もう二年生が来たのだ。
 それから、ぬるちゃんや、あうちの
 方と、七人入で、トランプをした。こ
 すばかのろさした。ちやうどコ
 すば、いまだにならんと出發用意に

なつた。

夜歸、それから又鼻諸の講習。

會があつた。又先生のを片方作り
ぬのも作つた。少ししう寢用意が
おろくなつた。石田先生の氷しやう
のかぎのお話があつた。阿久澤先
生や、喜門先生もいらした。

六月十三日水曜日。

一時間目は算數だつたが、自習だ
つたので、日記を書いた。たまつてぬ
たが、昨日の事まできちんと書けた。
圖二の時間は、線のも様を書いた。
私は、六角や、三角や、ひし方のを
使つて書いた。自分ながら面白いの
を考へたものだなと思つた。

國語の時間は、昨日した書取の
紙をかへして、いたいた、かなふり
も書取も十點だつた。よかつた。
それから軍艦生活の朝たうつた。
甲板將校は何となくこはいやう
な氣がした。

理科の時間は、又自習だつた。日
記のすじを引いたり、御歴代表を
見ないで、第一神武天皇から代千天智
天皇まで、何でも何でもくりかへして
書いた。お晝は増水で、たぐあひが
ついた。岩丸先生が、あづらしいよ、かん
だぬえ。とあつしやつたから、ぬたち

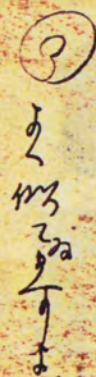
晴 雨 (木) 日 四 十 月 六



六月十四日 檢

くけく面白く書けて所あり。
ニのきけりけりい。い。まにけりありよ。

また雨は降り續いてゐる。又今日もお
部屋め生活かと思ふとつまらない。い
つか外で十分運動して、日に焼けて
丈夫な體を作りたいと思った。



「たふあんですよ。」と言った。先生は、るさ
けていうしやるのだ。

午後授業がないので、寮へ歸つた。さうして、は書に切手をはつてみると、前田先生がいらつしやうた。前田寮に前田先生がいらつしやうた。などどみんなでささやきあつた。~~さう~~うれしいので脚がおどつた。お夕食に行つた。中根さんたちが、みんなに、前田先生がいらつしやうた。と言つたので、みんな下へ降りて行つた。昨日と同じにしんだつた。とてもからかつた。

寮へ歸つて、すぐお茶をのんだ

丸窓の下に集つて、發表會のするもめを
きめたが、何をしてよいか、わからな
いので、明日にした。

寝る時はあげをおろしたはち
まを着て寝た。岩丸先生がいら
つしやうなかつたので、有賀先生が奇
嚴城を讀んでゐた。

くけく面白く書けて所あり。
ニのきけりけりい。い。まにけりありよ。



一時間目の音楽で大八洲を勉強した。
 今度から、二年は男サ一諸で、並永先生
 だ。さうして、六年生が加藤先生に受つ
 たのだ。先づ高音部をしてから中音
 部をうんと練習した。さうして、高音
 部と中音部を合唱した。あんなに
 も三部合唱は中音部が大すきた。
 二時間目は、自習で、軍艦生活の朝
 ですきな所をお帳面に書いた。
 三位あった。それから、三時間目に
 なるないが、算数の二十五二十六頁の
 計算に取りかかった。暗算がすん
 でから算算をした。山口先生が見てい
 らっしゃるので恥づかしいやうな気がし
 た。お食事になつても、まだ出来な
 いので気がむしろしてしまった。
 午後からはおさいはうだけだった。紙
 紙も取れたので、いよいよ布さたつ
 だ。袋ぬいの所は、一五センチ三折リ
 ぬいの所は三センチぬいしろにして
 たつた。先づ待針をうって、型紙の通
 リへうでしるしをうけて、廻りのしる
 しをつけた。それから岩田西洋ばさみ
 をおかりして切った。早くぬいたくても
 づむづした。早く出来たので、高島さん
 のを手傳つてあげた。お裁縫は面々、
 夜寮へ歸つてから、石田先生のお話
 があった。肉づきのめん、蛙太、ゆき、匠のお

六月十五日(金)



話だった。でも面白かった。今日ひさしぶりのよいお天気なので、土野ヶ原へ山菜取りに行った。岩丸先生のおべん當を持っていたので、先生のそばにはかりついてゐた。時々おべん當を見つは、「おべん當は御無事だし、心配ない」と言った。たいが行くと、「ボー」とサイレンが鳴り出した。警報が発令されたのだ。岩丸先生が敵機が来た場合はどうするかと言ふ事を注意なさった。敵機も来ないうちにお昼食になった。茂木先生が、「まだ二時前だよ」とおっしゃった。だがお腹の時計はもう二時半だ。お昼食がすんで少しすると、岩丸先生が訓練所の戸にいらした。歸りは道道セリ、のびる、ふき等を取った。サ爾學にのびるや、わらびを置いてから、寮へ歸り、身をふきおべんたうを洗った。でも氣持がよかった。それから日記を書いた。ほんたうに今日は楽しかった。あななどと思ひながら書いてみると、出発用意になった。夕飯はまぜ御飯だった。岩丸先生のおべんたうを持ってきた。だくやうにして持ってきたので、胸があたたかかった。寮へ歸ると、岩丸先生はもうお歸りいらした。

六月十六日(土)



瓦の上はとも
あつたよ



今日の予定は、体魚測定、寮舎の整理、
整頓・洗濯だ。朝食がすんでからすぐ寮
へ歸った。さうしてお洗濯を始めた。途中
で体魚測定に行つた。本部の事務室
の前の廊下で計つた。四年生の小さい方
からやうた。みんな返りに来たかつて見
てゐる。土境さん、平松さんも終つて私の
番だ。腰掛のやうなのに腰をおろすと、
ぐらぐらゆれたのでびくくりした。
二十五・六の間より、約一キロふえたので
うれしかった。五分もかかったため、かから
ないうちに、みんなすんでしまった。
歸つてから、又お洗濯を續けた。思った
よりも早くすんだ。

二階へあがつて、荷物の整頓をしよう
としてゐると、有賀先生が、これはおう
ちの方が作つて下さつたパルです。みん
なで一つづつあがりなさい。とあつしや
つて、器にパンのはいつてゐるのをあ置き
になつた。四五ロでいたゞいてしまつたが、と
てもおいしかった。あめパンは本當のツラツラ粉ヲ
用ゐるパンなんだ。分た。
午後寮へ歸つて、かけびとんしきびとん
両方干した。私と国行さんと平松さん
は、はしごに乗つて、びとんを上に運んだ。
重いのもあれば、ばかに軽いのもあつ
た。それから、日記を書いたり自由な
事をして、出發用意の少し前に取り
こんだ。フジの中の綿は、いり、アサね。

エイッ

ヤァッ



寝る時は、おふんがふかふかして、お
て氣持がよかった。

六月十七日（日）

（鍛）

今日もよいお天気だ。全蔵さん練があつた。かるい体操をしてから、運動場の迴りをめけ足した。途中で平松さんをおぶったり平松さんにおぶったりした。それから、白糸線技をした。西五サは、始め阿久沢先生の所で手りう彈投げのおけいこをした。デットボールの敵の頭と思って投げつけた。だがなか／＼目當がつかない。

次は、八畝先生のけん道だ。木刀を帯つて並んだ。すみだはらのやうなのを敵

矢と思つてかはりばんこに切り落すまねをした。それから左かまへ右かまへをした。きでもやざとなれば、特攻隊になるのだ。と氣持が胸いっぱいになった。 **ジャンキー**

石田先生の時は、ひたいで遊ぶことをした。下ばかりでやめた。すぐくのみにくはれてゐる人もおれば、ちつともさされてゐる。いづし顔をしてゐる人もあった。喜門先生の所ではどう道、手のこぶしで敵をおしたをすあけいこをした。おなかぐすいたのでお書はおかゆで、いり豆がお食後に出た。岩丸先生が教役、に腰をおろして笑つていらした。たのでおなかしくつた。かなめかなめなかつた。ごち走様がすんでも、まだたべてゐた。午後からは寮へ歸つて、すぐお晝寝をした。岩丸先生が私の隣でおやすみになった。起きるとすぐお掃除をして出發した。まだおむけがとれなかつた。明日は山さの狩なので、その仕度をして、ゆつくりとやすんだ。

六月十八日(月)



今日は久しぶりで、桑山へ山菜狩に行
くのだ。山のふもとまで来て、二三年と、四
三六年に別れて、私たちは頂上へ、二三
年は、トニネルの方へと別れた。さきの菜
につかはったりして、ふきの山ある所へ来
た。阿部先生が何度か、何度か、ふきの
はっぱをしておるものは、な取つしまへ
と、おしやうた。だいが取つて、頂上の那
め、のよい所で、楽しいあべんたうをいた
三都六年の人、めなはだ、(裸)になつてゐる。
船見さんや、三木さんは、土人のやうだ。だんだ
どが、照つて、また。まだ、五分位しか、いた
て、おないの、いまだ、なあと思つた。全部、た
だ、いして、しまつて、かゝる、日、思へは、い
つた。

とした。茂木先生といふ、いふ、話した。一本の、わらう、かう、いふ、あ
話も、して、いた、だ、い。お風呂を、た、く、時に、使ふ、枯太、地菜も、取つた。
歸りは、すべ、あやうに、送、ん、ど、ん、降、つた。い、くら、ゆ、つ、ス、リ、歩、り、降、つ
らう、として、も、走、つ、つ、ま、つた。芝の上で、少し、休、んで、女、學、校、さ、し、て、
歸、つ、て、ま、た、世、り、を、ご、ご、の、に、置、き、お、べ、ん、當、箱、を、洗、つ、て、寮、へ、歸、つ
た。夜、ま、き、を、運、ん、た。岩、丸、先、生、と、中、川、先、生、は、ち、く、音、器、を、持、つ、て、
い、ら、う、じ、や、つ、た。寮、へ、歸、つ、て、日、記、を、書、い、て、お、る、レ、コ、ド、を、か、け、
い、ら、う、じ、や、つ、た。の、で、聞、き、に、行、つた。モ、ル、ス、7、号、の、だ、つた。ト、ニ、
レ、コ、ド、が、い、ら、う、じ、や、つ、た。大、き、な、聲、で、サ、ー、い、言、ふ、や、う、に、し、た。阿、久、澤、
生、が、い、ら、う、じ、や、つ、た。何、を、し、に、い、ら、う、じ、や、つ、た。か、な、い、思、つ、て、お、る、と、さ、き、
五、年、サ、子、は、こ、ち、へ、集、り、な、さ、い、と、お、し、や、つ、た。先、生、が、何、の、げ、き
を、す、る、か、き、め、て、下、さ、つた。ま、だ、又、は、ま、ま、う、な、い、が、ど、ん、な、や、く、に、あ
た、つ、て、も、一、つ、かり、や、り、を、げ、よ、う、に、思、つた。は、た、し、て、ど、ん、な、や、く、に、な



細い川ぶらに山あった。袋がっぱい
なつてしまった。林をぬけたりして涼しい
所へ来てお昼食になった。川の水で
洗つていただいた。日影にばらばらにな
つていただいた。私は茂木先生と岩田さん
と。先生が岩丸先生にりんごを持ていうつ
しやつてゐる時、たふあんを落してしまひ急
いで、岩田さんの水筒の水で洗つた。やつとお
べんたうをいただいた。今度はありんごだ。
先生にないふをかしていただいた。四分の一に
した。又ころがしてしまった。又岩田さんの水で
洗つた。今度は落した。二度目わいようがき
ごんはのをあつた。どううと思つた。

岩田さん二人で皮の赤いところを削にして、鬼にしたりいろいろの
事をした。一番最後の八分の一をきれいに皮をむいて、それから一口位
づつみも切つていただいてゐると、又落してしまつた。三度目のしょうち
きでひびいかと思つたらうさうでもなかつたので安心した。りんごもみん
ないただきあげた時は、お昼食用意の時から、もう一時間おやつ
めた。それからせりの根を煮たりして、半分位おえた時集合にな
つてしまった。それからはずつと何も取らずに歸つた。お宿の前位
かりばんだの櫓と、大東亜戦争海軍の歌を歌つて、元氣よく校
門を通つた。もう六年生は歸つてゐた。すぐ寮に歸つて二十五分間
の間日記を書いた。四年生の名保順に、お父様のじよく業を先生が
お聞きになった。それから出発用意までお昼寝をした。
夜歸つてから、読書會の練習をした。四年生と鈴蘭のお部屋
で八銀先生とさうだんとてゐた。



った。神社の前でゆらぎあのにくいにく
い果実をそつけますとかたかくあち
かいした。すんでから、体練教室に行
つて、三回練習した。これで私たちだけ
で練習するのは終りだ。明日のよこ
う、練習もしかりして、二十五日は今
まで練習したのをもうともしと上手に
しよう。すんでから教室へ歸つて、日
記を書いた。二号教室から、いーいば
かり聞える。お晝食がすんでから、
寮へ歸った。足をふいてあがってすぐ
洗濯に取りかかった。今日はこの間より
少く、下着下はきハンケチの布だけ
だったのが早くすんだ。

それから、荷物の下のゴミを取って、荷物の入れかへをした。

日記はいつも上原さんのようにきちんとしてあかう。

日記はたまにぬるので、日記も書いた。もしもたまにぬね

いのですうとした。それから、地理をでかして、あみものをし

た。夕食は、あからのはいったお豆御飯だった。おつゆはおと

うふ。お食後には、いり豆があった。大豆から出きたものが四し

るいあった。お葉づけもあった。寮へ歸つて少しするところへ

蹴先生がいらして、四年生が練習してみたので見てわ

た。日記の發表といふたいだ。何となく私たちより上手な

気がした。夜中お牛乳へ行く時おとこひ取って来たほたるが

光、おわてこはかうた。

で螢の光を、あ、あ、あ、ええ

六月二十三日 土曜日

今日は園内だけで練習する日だ。朝食の途中で、警報が
鳴った。朝會の途中でかい際になった。九時半までに、サウナ校



の体操教室に集つて、いよいよ始まつた。体操後はいよいよおたのしみになった。

一番終は、三部六年だった。とても長かつたので、先生に時間を聞きまして、

みると、二八分だったさうだ。私たちのだいたいに二倍位なのでびっくりした。

みがかずばをきいて、開会の式になった。五年サ子は、そのあとで、体操教室をは

いた。すぐお昼食になった。午後から日記を書いてゐると、所久沢先生がいら

つして、五年サ子はもう練習をします。とおっしゃったので、体操教室に行くと、サ

子と交りかみを使つて、

をだいの上にあげる時は、とても大へんだった。説明する時も、よくのて言ひにくかつた。一回練習してから、寮へ歸つた。さうして日記を書いたり、自由な事をした。四年生の練習を見た。階級のあさう際の時、せつめく今日配結して、いたたいたため、もてをぬいてしまった。歸りは雨にぬれながら歸つた。だがこればかりの雨、沖繩の兵隊さん

をだいの上にあげる時は、とても大へんだった。

説明する時も、よくのて言ひにくかつた。一回練習してから、寮へ歸つた。さうして日記を書いたり、自由な事をした。四年

生の練習を見た。階級のあさう際の時、せつめく今日配結して、いたたいたため、もてをぬいてしまった。歸りは雨にぬ

れながら歸つた。だがこればかりの雨、沖繩の兵隊さん

を思つたら、何でもない。と心の中て思つた。何もする事が

ないので、オルガンをはいてゐると、有賀先生のお聲がする

ので、ちやうど教室の方まで見えて、お留守と、お留守と、

お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、

お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、

お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、

お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、

お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、

お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、

お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、

お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、

お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、

お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、

お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、

お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、お留守と、



七時になつてしまった。
 すぐ寮へ歸つたが、少し遊んでゐると就
 寢用意になつてしまった。お手洗に行く
 時など、晝間は寝んでゐたやうに光も
 出さなかつた。はたするが急に火でもつけ
 たやうに光つてしまつた。きりりだった。

六月二十三日 月曜日

今日は皇太后陛下の御誕辰記念
 日だ。それに卒業會もある。うんざが
 ん張つてしようと思つた。朝會に續い
 つ奉讀式があつた。それからいろいろ
 と卒業會の準備をしてから、松た
 ちが先に並び松・福光校の先生方生
 徒さんたちも招きし、福光小学校

の先生方もお招きし、二時間にわたつて卒業會
 をした。今度はこの間と違つて、卒業が
 の方を見ると、みかん色の丸い物が
 何となくかひこが動いてゐるやうに思
 へた。二十三日のよう練習の時より
 上手に出たので、氣がすつとした。す
 話があつた先生が歸つていうし、
 であひつをけを運んだ。あかゆではな
 こでもおいしかった。先生が今日はよ
 私は、本當に上手に出たなあと思つた。
 お洗濯や、自由にするはづだが、
 ので全部お洗濯をした。岩丸先生のお
 ンタニ。とか「イワマルセンセイノイ
 きなさいとあつた。ねむくて起きる



仕方なく目をこすりこすり下へ降りた。
もう午前中あった楽しい発表会も昨日の
やうに思はれる。お夕食がすんですぐ寝へ
歸った。そのものどがかはいてゐるのでお
茶を沢山飲んだ。その後で、みどり色
の紙口筆水をおいた。茂木先生が、
これにお砂糖があるともつといひのに
ねえ。とおしやうた。私はこのひじよう
じにお砂糖などいうないこれだけい
ただけるだけでももったいないのと思
つた。
砂糖はカソリンの多料です。

六月二十六日 火曜日

今日は、西太見まで親が新取りに行くの
だおべんとうを持って、元氣よく校門へ

を出た。神社の前も通り材木の沢山ある所へ着いた。「がーがー」
一定の大きさに切らうとぬるすさまじい音だ。少し休んでから裏の方
にある材木のくづを道の所に積み重ねた。三部六年はも
う必死でぬちの間を通ったり、大木の横たはつてゐる上を通
ったりあへぎながら運んでゐる。私も出来るだけ早く歩い
て運んだ。終つた。すると、沖繩がきこえた。などと言つ
てゐる私は一さういふ事にはなつた。だいが運ぶと、あと何でもよいか
う一本。と、またなが言つてゐるので、木の皮を剥き、こまかい木を運
んだ。さうさうと流れる小川で手を洗ひ、芝の所でおいし
いおべんとうになった。少しいたたまきがある。入浴なさる
方と、その方にお送り。いろいろしやる方が沢山いらつしやうたの
でも、もうと煙がたつた。おいしいおべん當もけろりといただいて
歸りは、薪を持って歸るのだ。途中まで運ぶと、茂木先
生が持つてあげるから早くいらつしやう。とおしやうたので



持つていただいてしまった。又少し歩いて
行くと、遠くに甘學殿が見えた。私は
「ああ畠道を歩いて行けば早いのだが
なあ。」と思った。足をひきづって、やうと
甘學殿へたどり着いた。すぐおべん當
を洗ひに行った。うがひをするととても
口の中がすっきりした。のどがかはいてわた
ので、おべん當箱ニ配めんだ。それから
すぐ寮へ歸った。自質先生と、高島さん
がわかしこいておいて下さったお風に、三班
から順にはいった。さうして、田中さんの
お父様が持つて来て下さったきび餅を
セツツついただいたとてもおいしかった。
途中でお風呂になったのではいた。
あみがぼろぼろ出たが、とても気分
持がよかった。
あんなに



衣就寝用意になつて、床をしき、歸
たらすぐ寝られるやうにしてから、
ほたる取りに行った。小矢部川の岸
を通つて、吉波寮のそばまで行った。
人が歩いてゐるやうに、あちうでもこち
うでも光つてとてもきれいだった。沢山取
ちのですぐ歸つて寝た。ニ匹お部屋
に離した。光つてもきれいだった。

六月二十七日水曜日

今日も又薪運びだ。だが先生が行か
ない方がよいとおっしゃったので、行き
たかったが休む事にした。



へ行った。午後から又寮へ歸つて、のみ
取勝さまいたりして、めり、豊を、みれ
た。午前中よりも重いような気がし
た。階段の所は、とても大變だった。
教官室のは、番号ではなく、イロハニ
ホヘトと言ふのだった。お部屋がす
っかりきれいになつて、から、お洗濯をす
る人は、その用意をして、小矢部川に
水遊びに行った。始めお洗濯をして
あとで、ゆつくり遊んだ。一時間ばかり
りして寮へ歸つた。歸つて見ると、これ
は、びっくりかゝがつつて、あつた。少しト
ランプをして、ぬる、夕食になつた。

三部六年や、三部五年の人が、小矢部
川で泳いだと言つて、自まんし、おた。だが、おたたちも川で遊ん
だので、きううらやましくなつた。晩御飯の時、五きれづつき
うりがあつた。とてもおいしかった。福光へ来て、始めてだ。

夜始あつて、かやをつつて下さつた。あと、棚さへ作つて、ただければ
よいなあと思つた。 **だん／＼寮舎も氣持よくなります。**

五月二十九日 金曜日

午前中は、西太美まで新運びに行つた。福光殿の方も手
傳つて下さつた。材木の精んである所まで、やつとたどり
着いた。福光殿の方は、おたたちの二倍も三倍も持つて、その
上、ふきを沢山取つて、とても大變だ。田舎を下に見て、芝の所
で薪を置いて、平松さんと二人で、お話しして、ぬるとも、めふの、方
からトラツタが、来た。道が、さまゐの、で、ひか、れさうで、こは
くつた、まゝ、ない。田んぼの中に、落ちさうになつて、トラツタ
の通り、運ぶのを待った。



福光族の男の人と此に續いて女の人
が沢山薪を運んでいらつしやる。私
たちがあまり少ないので何だか
恥づかしめた。先生方の車にも負け
て終の方になつてしまつた。え、ちうあ
ちうやつと山下寮に着いた。行め
なかつた人たちがをけのお湯をふ
に返んでみんなにあげてゐた。私はい
ただきなかつたので薪を置いてすぐ
ササ族に行きお晝食をいただいた。
午後三時はお晝かたお晝だった。
六月三十日土曜日

今日も雨だ。昨日はあんなにお天
氣がよかつたのに雨だ。二時間

目は炊事場の横の廊下でふきの葉とまはりの皮みたいなのを
取つた。みんなはむたがうてゐる。手はあくで茶色になつて山のやう
になつてゐる。七時五十分から國民學校の講堂で福光族の先
生のやうな儀式があつた。私たちが参加した。校長先生のお話があ
つた。人々をなぐる先生はいはた先生ださうだ。さうして明日福光の
九十六部族に大勝せられるさうだ。一番最後に、いはた先生の万
歳と福光族の万歳をした。それから門までお送りするは
ずだったが私は頭が痛かつたので茂木先生のレントをかく
つて音楽室で休んでみんなの歸つていうしやるのを待つてゐた。
お晝は御飯をいただくお晝だけのんだ。
午後は寮へ歸りお部屋と荷物の整理をした。お部屋
や荷物もめづめた。私は山奥の鈴蘭のお部屋になつた。荷物
は小泉さんや田中さんの間だった。すっかり整理出来てから
此にお部屋をはいた。今日から鈴蘭のお部屋で寝

るのだ。ねばけないかしらと思ふと
心配だ。だが早く寝てみたいなあ。

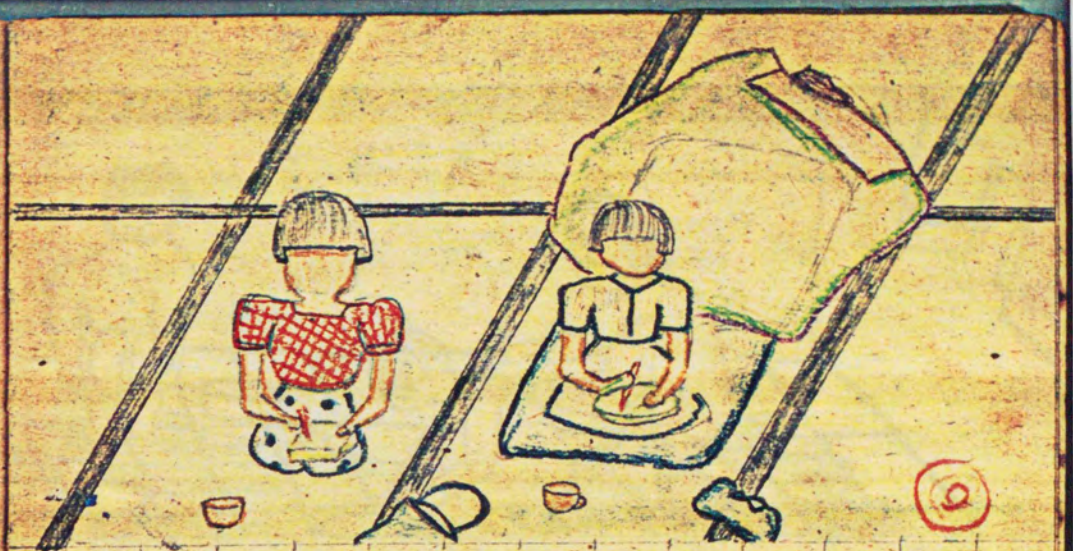
七月一日 日曜日

起床になつても頭がふうふうして、立つ
気がしないがやっと起きた。田中さん
が、のこりを清んで下さった。さうして
銀蘭のお茶を早くはいて床を
いて又寝た。洗面をする気がしな
った。みんな寝てしまつた。お話し
のがうらやましくてもうなめた。
病氣の時ばかりで、いそいそと
してから、いそいそとみんなが
さんの隣に寝た。だれが歩めな
かんがんとて、笑ふとでも響くので



いそいそと、いそいそと、
今頃は第五日の危強を、いそいそと、
と思ひながらみんなが歸つて来るのを
生が、あかゆを下さった。ふきと、小梅
ひな菊から、白百合にかけて、すわり
やる。おいしにおかゆもいただいた。又
くてしたくてもむづむづしてゐた。また
だ。早くなほつて、省さんに御恩がへし
や、その他のお勉強を、おひつかうと思
七月二日 月曜日

今日は休養だ。朝食には行かず、河井
を書いたり、日記を書いたりして、み
るのを待つてゐた。先とう足ふめ、田
中さんの聲がした。



少しするど、ドヤドヤあがって来た。
食事當番の人に河井さんと二人に分
けていた。たいてい御飯をいただいた。

それから又日記がたまつてゐたので、そ
れを書いた。お書食は、學校に行つて、
河井さんの本を持って来てあげた。午
後から先づ下ばきであつた。關東平
野の地圖を書いた。それから平松さん
と岩田さんと三人で、花后せをしてあ
そんだ。たいてい私は負けてしまった。
お八つに前田さんのおうちの方が出
して下さった。油であげたお菓子を入
れた。いただいた。なんだが、いかの輪切の
やうな気がした。だがとてもおいし
かつた。手に油がついて、もったいないやうな
つた。それをいたたいて少しすると、出發用意になつてしまつた。
お夕食後ハ、缺先生が、今度からお手洗ひにござうりを入
れました。おの方が三足男の方が一足。とおしやつた。
歸つてから、ずいぶん日記を書いた。夜しばらくぶりだ。岩
丸先生のお話があつた。真暗なので、今にももうじう
が出さうな気がした。

七月三日 火曜日。

今日は、第一日の授業だ。國語は、武士のおもかげをお
習ひした。文語文でわけのわからない所が沢山あつた。
最後に、大江匡房とが、前と場所をお帳面に書
いた。地理の時間は、特別莊地帯と、京濱工業地帯
阪神工業地帯と、のりの取れる所、下町山手などをお
習ひした。下町には、工業・商業が發達し、山手は住宅



地だといふ事、東京は、帝大を始め
 学校が多いから、田舎から勉強を
 する人は東京へ出て来るから、人口も
 多いところだ。それから、東京附
 近の地國を書き。それに、鐵道工
 業のり、別荘などを色分けにして
 書いた。圖工の時は、もうのつぎ
 をした。真四角の中に沢山小さな
 四角を入れた。
 午後から寮へ歸つて、一班はあ
 り、二班は、洗面の所づかみ
 洗ひをした。それから、お風呂に
 はいった。この間、お風呂のやう
 にぼろぼろあがった。

お風呂からあがって、すこし休んでから、着かへた物も、も
 ちペを洗った。それから、出発用意になるまで日記
 を書いた。お食事のすんで歸つてから、日記を書いた
 たり、大沢さんの食器を洗ったり、包んで来たふろしきお
 べんたう袋を洗ったりして、こまひをしまつた。
 七月四日水曜日 **せまと言はれ、親切は買ひます。**

久しぶりで、外で朝會をした。今日は第二日目の授業だ。
 足を洗ふ時、もともちも、お風呂の時間を、口語
 文だつたり、さうでした。いふやうな所を、文語文で書いて
 あるのはどういふやうに書いてあるかしらべて、お帳面に
 書いた。けりとか、でぬとか、たりと言ふのがあった。
 國史の時間は、飛鳥の都をお習ひした。主として、
 聖德太子の事をお習ひした。それから、
 推古天皇様は、廿の天皇様だといふ、しつたので、びつ

七月四日 水



くりした。お習字の時間は二五
の二だけを書いた。

午後からは、ずい日記を書いた。
六年生が、もんぺをぬいで、
早く下ばきをはいて、もんぺもぬい
るやうになるとよいな、あと思った。
トランプもした。有賀先生に日記
を見ていただいた。みておる、と
てもおかしかった。お風呂にはいっ
ておる所に、くるりくるり、一五魚
丸になさったのでびりくりした。
それから又日記を書いた。もんぺを
ぬいだり、ずいとして、気分が良い。
夕食は大ごち走で、きうり、にしん

そり豆のいたのがあって、あさう豚もおそろいになってしま
ひ寮へ歸った時はもう七時十分だった。

七月四日 検、まいのを書けてみます、むくなく一日一日きま
りをつけて行くことは大そう良い習慣です。

七月五日 水曜日

朝洗面の終ったのが六時二十五分だった。出発用意まで
だいたい時間があるので、算数の筆算をして、お裁縫
の下ばきの出来てない所を縫った。袋縫いの二度目だ。
縫へてから、ああ早く出来あがると思っていたなあ。と思ひなが
ら縫目を見た。さて今度は何しよう日記を書くのもま
だ早いしと思つてゐると出発用意になった。
学校へ行く、二部六年方達が、今日はまぐろのはい
つてゐる御飯ようれしでせう。お達におしやう。おは
とてもうれしかつた。お教室へ行って少とすると先生が

アタタカイ
オミソシル
オイニイマゲ
ロゴハン
コナゴチ
ソウカイタ
イダケルハ
リガタイガニシメ
イダダカウ



御飯を付けて下さった。昨日の夜
もお魚今朝もお魚ほんたうに私
たちは有がたい。と思った。

朝會がすんでお部屋をきめていた
だった。私たち五年は、圖書館たっ
た。阿久沢先生の算数の時は福光音
頭を書いた。國史の時間は、佛教の
事について勉強した。宮地先生が、
おしゃべりのお話をお聞かせした。
地理の時は、利根川を中心とし
て、火山・温泉・峠の事などについ
てしらべた。時間がたいたので特急
でした。お昼食は、お増水だった。

五時間目のお裁縫の時、先づま

た木をぬの方面で先生にあうかがひした。一度目も縫
ひ二度目は、なるたけこまめになるやうにして縫った。

お裁縫がすんでから、布で中に紙を入れて、指ぬきを
縫った。お夕食は、おつゆ・お赤飯・きまべつ・とうろこぶ
お餅があった。お赤飯は全くおはぎのやうだった。とうろ
こぶにお赤飯お祝ひの物ばかりでみんなとてもおいし
かった。それは、石田先生におよめさんをおもひになつた
さうだ。さうして、疎開学園一家でお祝ひするといふめ
けだったのだ。それがすむといつものやうに、男の先生の、歌
やしぎんが笑った。阿部先生と岩丸先生は、本當に大へん
だった。お當番がすんでから、すぐ寮へ帰り日記を書いた。

一日シラウ ちんねの げんき ちんねの ちんね